

## 令和7年度第1回総合教育会議 会議録

1. 日 時	令和8年2月18日（水） （午後3時から）
1. 場 所	市来庁舎 2階庁議室
1. 出席者	中屋謙治市長、出水副市長、 相良一洋教育長、國料委員、橋口委員、若松委員、坊野委員 山崎企画政策課長、吉永教育総務課長、西村学校教育課長 （書記）橋元教育総務課長補佐
1. 協議事項	（1）令和8年度当初予算の要点について （2）小学校の今後のあり方に関するアンケート調査について （中間報告） （3）荒川小学校の串木野小学校への統合について
事務局	只今から令和7年度第1回総合教育会議を開催します。 まずはじめに、中屋市長がご挨拶申し上げます。
中屋市長	皆さん、こんにちは。 教育委員の皆様には、日頃から本市の教育行政にご尽力いただきまして、心からお礼申し上げます。 本日の協議事項の1つ目は、「令和8年度当初予算の要点について」であります。 令和8年度の行政の大きな課題について議会で議論いただく訳ではありますが、その中で、当初予算として掲げておりますもの、時間の関係で概要・要点の話になろうかと思っておりますけれども、説明を聞いていただければと思っております。よろしく申し上げます。 2点目は、「小学校のあり方に関するアンケート調査」ということでもあります。 既に回答は締め切っておりますけれども、まだ集計が終わっておりませんので、本日は中間報告ということでご理解いただいて、このアンケートの調査結果・進め方を協議いただければと思っております。 そして3点目が、荒川小学校PTAとまちづくり協議会から出された要望書について、委員の皆さんからのご意見をお伺いできればと思っております。 アンケート調査とも関連しますけれども、少子化が進行する中で、もはや小学校についても、今後、再編・統合が避けられない、そ

	<p>う段階にあるのではないか、こういう報告をしておりますが、やはり、不登校問題もあります。それから大人数の学校になじめない子供達もいます。そしてこれまで特認校生として、自分の居場所を見つけて良かったと、こういう話も聞いております。こういうこと等も併せて考える必要があるのではないのかなと思うところであります。</p> <p>本日は委員の皆さんの忌憚のないご意見をいただき、今後の教育行政の進め方に活かしていければ、このように思っております。</p> <p>どうぞよろしくお願い申し上げます。</p>
事務局	<p>それでは、協議と報告に入りますが、ここからの進行は市長にお願いいたします。</p>
中屋市長	<p>それではしばらく進行役を務めたいと思います。</p> <p>会次第3番目の協議、(1)「令和8年度当初予算の要点について」、担当課長から説明いたしますので、よろしくお願い致します。</p>
企画政策課長	<p>お配りしている資料「令和8年度 当初予算(案)の要点」を使って、概要について説明させていただきますので、よろしくお願い致します。</p> <p>令和8年度当初予算の資料を見ながら主な事業等について説明</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○令和8年度一般会計当初予算は187億400万円で、前年度比では0.9%の減ではあるが、過去2番目の予算額であること</li> <li>主な増減要因としては、中学校施設環境改善事業などある中で令和7年度に実施した防災行政無線施設整備事業や学校再編に係る串木野中学校施設改修事業で、約7億円の減額が生じたことなどが主な要因</li> <li>○予算の特徴としては、令和5年度から人口減少・少子化対策に重点的に子育て支援に取り組んでいることから、令和8年度は粘り強い少子化対策と未来を創るまちの魅力づくりを基本方針として予算を計上していること</li> <li>○人口減少・少子化対策の子育て(負担軽減)については、「学校給食費」「子ども医療費」「保育料の無償化」に約3億円、子育て(環境整備)については、長崎鼻公園再整備事業などに約3億5千万円、移住定住促進として約7千万円を計上</li> <li>○まちの魅力づくりとして代表的な事業は、「洋上風力発電調査検討事業」や「沖ノ浜エリア活用事業」など</li> <li>○人口減少・少子化対策の移住定住促進では、「Webプロモーション推進事業」や「移住定住促進事業(お試し体験住宅)」の充実や「定住促進補助金」の計上など</li> <li>○まちの魅力づくり・未来につながる投資では、「安茶工業団地造</li> </ul>

成事業」や「冠岳小学校跡地利活用促進事業」なども実施

○子ども・若者・女性への重点投資の充実の中では、子どもチャレンジ体験プロジェクトの中の、青松塾、チャレンジ教室、キッズスポーツ塾などについては、これまでの取組を継続しながらも、内容や役割を充実させ、学びと体験を積み重ねる育成プログラムとして展開する

これまで甑島で実施していたアドベンチャー事業については、「市内＝発見の舞台」「市外＝挑戦の舞台」と位置付けた二つのフィールドで実施することで新たな仕組みを構築する

○人を惹きつける魅力あるまちづくりの中では、「薩摩ステューデント奨学プログラム事業」の奨学金返還補助で、若者の定着と移住の後押しをするため、就労要件の緩和や補助額を拡充する改正を行う

「冠嶽園周辺ビジョン策定事業」は、冠嶽園の老朽化が進行し、安全面や景観面において課題が出てきていることから、花川砂防公園や冠嶽神社など、周辺資源を含めたエリア一帯の将来像を整理し、基本構想を策定するもの

「郷土芸能保存継承モデル事業」は伝統芸能を将来に継承するため高校生郷土芸能サポーター制度を創設し、次世代の担い手育成と団体の活性化を図るため、新たに事業を創設するもの

中屋市長

令和8年度予算についての概要の説明でしたが、何かご質問があれば、お受けしたいと思います。

中屋市長

まず私の方から、薩摩ステューデント奨学プログラムは、今回、制度の見直しをするということでしたが、内容の説明をお願いします。

教育総務課長

明日の定例教育委員会でも、審議していただく予定としておりますが、今回の見直しは、就労条件の拡大と補助金額の拡大を図っています。

薩摩ステューデント奨学プログラムには2つの奨学制度がありまして、地元の方が借りられる奨学金制度で鹿児島相互信用金庫と連携協定している薩摩ステューデントローンと、いちき串木野市内に就労した方を対象とした奨学金返還支援制度がありますが、奨学金返還支援制度の方を見直すこととしております。

補助金額については、1年間の補助限度額を24万円から30万円に増額し、就労条件については、対象者を本市に住所を置いて本市で就業することとしておりましたが、市外の就労でも本市に住所があれば、15万円を上限に補助しようとする内容となっております。

	<p>また、対象者の年齢についても 30 歳未満から 35 歳未満に見直し、補助期間も奨学金の返還開始から 10 年間としていたものを、奨学金の返還が終了するまでか、又は奨励金の総額が 300 万円に達するまでとしておりますので、総額で言えば 240 万円から 300 万円に増えることとなります。</p>
若松委員	<p>今の返還支援制度で、市内に就職した場合と市外に就職した場合の差が設けられていて、本市に住所があれば税金は一緒な訳ですが、それをあえて区分しているのは、どういう理由でしょうか。</p>
教育総務課長	<p>市外就職について議論をしたところですが、この返還支援制度というのは地元雇用対策も含めた形で制度設計を行っております。本市に住所を置き、市内での就労を条件としておりましたが、市内の企業だけでは選択が厳しいという意見もありましたので、市外まで広げたところです。</p> <p>ちなみに、このような返還支援制度を設けているのは、全国では数ヶ所ありますが、鹿児島県内では本市だけです。</p> <p>市内の就労を勧めたいというのもありますので、このような制度設計で整理したところです。</p>
出水副市長	<p>奨学ローンについても、市外居住者の方が対象とならないか検討を行ったのですが、金融機関との協議の中で「市内居住者とさせていただきたい」とのことで、一步踏み込めなかったため、今後も充実について考えていきたいと思えます。</p>
中屋市長	<p>奨学ローンの制度については、高校生は毎月 3 万円、大学生は毎月 5 万円ですので、7 年間のトータルでは 300 万円を超える額となって、卒業後、勤務先は市外であっても市内に居住すれば、返還額を補助しますという、極めて有利な制度だと思ってるんですが、PR 不足を含めて、日本支援機構などの奨学金を借りている方がたくさんいらっしゃる中では、利用が伸びていない状況ではあります。</p> <p>もっと知られると、市独自の奨学制度の方が有利で、使い勝手が良いようになってくるんじゃないかと期待はしていますけれど、まだ取組がうまくいっていない状況です。</p>
教育総務課長	<p>参考ですが、この制度は令和 5 年度に始まったのですが、薩摩ステューデントローンの登録者は 20 名となっておりますが、その中で金融機関からローンを借りられているのが 14 件となっております。</p> <p>奨学金返還支援に関しては、7 名の方が申請されております。</p>

<p>中屋市長</p>	<p>就業状態を見ますと、病院に1件、保育園関係に3件、あとは市内の企業です。</p> <p>他にはありませんか。</p> <p>また後ほど、気が付かれたら、質問いただきたいと思います。</p> <p>それでは(2)「小学校の今後のあり方に関するアンケート調査について」ということで、中間報告段階ですが、教育総務課の方から説明をお願いします。</p>
<p>教育総務課長</p>	<p>資料1をご覧ください。</p> <p>今回行ったアンケートにつきましては、1月13日から30日までの約20日間にかけて、幼稚園・保育園の保護者並びに小学校の保護者に対して実施しております。</p> <p>この資料を見ていただいて、本市の児童数をはじめとした小学校の状況を知っていただきながら、ほとんどの方がWEBでアンケートに答えていただきました。</p> <p>まだ、分析が行き届かないところがありますが、掻い摘んだ形で結果について説明させていただきます。</p> <p>資料を見ながら、アンケートの結果について説明</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○回答率は、幼稚園や保育園の世帯数が把握できないので正確な数字を出すことができないが、小学生の世帯で計算すると、小学生の世帯数は766世帯に対し、小学生のいる世帯からの回答が448世帯であったため、約58.5%の回答率であったこと</li> <li>○アンケートで行った8つの質問の回答について、小学校ごとに分けて、回答内容の確認</li> </ul>
<p>中屋市長</p>	<p>説明がありましたが、ご意見・ご質問があればお受けしたいと思います。</p>
<p>若松委員</p>	<p>事前に資料をいただいていたので、目を通していたんですが、こういう結果になるであろうと予想できる回答だったなと感じました。</p> <p>それぞれの学校の良さを見て、特認校を選んでいる保護者や、それぞれの学校区に通う子の保護者のご意見という形で、数字的によく表れているなというのが、私の思ったことでした。</p> <p>学校統廃合の問題は大きな問題であると思うんですけど、その中で特認校を生かしながら、色々な子供と一緒に学べる環境も大事にしていかなければならないのかなというふうに、このアンケート結果を見て思いました。</p>

<p>國料委員</p>	<p>実際、特認校に出されている保護者は、特認校の良さを感じてアンケートに答えていらっしゃると感じたので、そこを考慮しながらこれからの小学校のあり方を考えていく必要があるのかなと思いました。</p> <p>内容についてはすべて目を通させていただきました。</p> <p>私の子供も串木野小学校区でありながら、旭小学校の方に特認で6年生と4年生という状況でありますけど、アンケート結果を見させていただく中で、やはり小規模校の良さというのはそれぞれ独特なものがあり、そしてまた、アンケートにもありますように、一人一人に目が届きやすいというところは、非常に感じるところであります。</p> <p>しかしながら、一人一人に目が届くという点で小規模校を選ばれている保護者は、大きな学校はそれができていないというような、逆説的なとらえ方もできるのかなと、それが対応できていけば、ちょっと形が違ってくるのかなと思うところもあります。</p> <p>アンケートの結果でもありましたように、35名程度のクラス人数を少なくして、教職員の負担軽減を図りながら一人一人に目が届く体制が望ましいのかなと思うところです。</p>
<p>橋口委員</p>	<p>人口減少、少子化が続く限りは、こういった学校統廃合というのは全国的な問題としてこれからも続いていくと思うんですね。</p> <p>私も一通りアンケート結果を見たんですけども、問6の今後の小学校のあり方をどのように考えますかという問いに対する回答で多数意見を見た時に、例えば「現在ある学校をこのまま残した方が良い」が多い学校に川上小学校があります。地域の行事の特色のある存在と連動してるかなと思ったところです。</p> <p>学校があって地域がある。地域があって学校がある訳ですけども、特に文化的なお祭り等の行事を地域・学校全体で盛り上げている地域に限って、現在ある学校をこのまま残した方が良いっていう回答に繋がっているかなと考えたところです。</p> <p>数が多いから、少ないからということで、統廃合の問題を考えることよりもっと大事なものは、学校での教育の質だったり、地域の伝統行事とかそういったものをどうやって地域に残していこうかっていうことを、私たち大人が考えることかなって思いました。</p> <p>自分の意見を述べさせてもらえれば、定例教育委員会でも話したんですけども、子供はどこに行っても、どんな環境に置かれても、成長する力をそれぞれ持っている。それに対して大人はどれほど子供の教育環境を支援していけるか、整えてあげられるかっていうのが、これから先大事なんじゃないでしょうかっていう話をさせていただきました。</p>

小規模の学校の方が、一人一人の学習状況とかを担任の先生に把握してもらえらるって回答が多いんですけども、数だろろうかって思うんですね。

学校の先生方の働き方改革っていうのも、同時に見ていかないといけない。

小さな学校でも、大きな学校でも、子供達が「楽しい」って言って通っている学校の共通点っていうのが、学校の先生達同士の風通しが良くて、仕事が多くてもできるだけ皆で協力する体制、そしてアプリなど使って、働き方改革の中でデジタル化を推進している学校の事例があります。

全国の小中学校の働き方改革の番組とか記事とか、気を付けて見るようにしているんですが、いちき串木野市の学校は、どういった働き方改革をしているのか。学校の規模よりはそこで働いている先生達の働き方はどうなっているのかなど、見直していく必要があるのかなと感じています。

統廃合というのは、人口減少が進む限りいつかは来る訳なんですけれども、私達にいつというのは分からないんですが、いつか来る時のために、廃校跡地の利活用を考えていかなければならないなと思っっているところなんです。専門委員会のようなものを作られて、継続的に協議されているのかな、というのが気になっている部分です。

廃校跡地が、老若男女の交流施設とか、放課後の拠点施設としてとか、あるいは防災備蓄の拠点としてとか、そういったことを話し合っていらっしゃる会議があるのかな思ったりしてます。

いつかどこかでそれが起こるということを前提にした審議会や勉強会のような、そういうものを設けていただければと思います。

中屋市長

ありがとうございます。

先ほど企画政策課長の説明にもありました、今回、生まれた赤ちゃんの人数が100人ということで、いちばん少ない数なんです。色々な手を打ってきて、前の年は103人、その前の年も103人ということで、全国的な少子化の急速な流れの中で減少はしていますけれども、なんとか踏ん張っている状態かなと思っっているところなんです。

委員がおっしゃるように、この少子化というのは止めようがありません。仮に有効な手が打てたとしても、その成果が出てくるのは20年30年先ですので、この流れというのはまだ20年30年進んでいくんだということ。このことをしっかり頭に置きながら、どういう対応をしなければならぬのかというのは、これからの我々の大きな宿題だと思っいます。

坊野委員	<p>小規模校と標準校、それぞれの良さがあるので、小規模校はやっぱり人数が少ないと社会性とか人間性とかが育まれなかったりとかありますし、先ほどありましたように、あまり人数が多くなると先生方の目が届かなかつたりとか、そういったのもあるので、一概にどう統合したら良いという結論を出すのは難しいかもしれないですけど、いろんなシミュレーションをしてみて、どれが一番良いかを時間をかけて作ってってもらいたいなと思うのと、子供達の成長を一番に考えて、先生方の負担も多いということなので、その意見も聞いてみたいなと思っています。</p>
相良教育長	<p>各地域からの意見というのは、色々出てくるだろうというのは予想される訳ですけども、児童生徒の急激な減少が収まらない、10年先20年先に収まるかということ、収まらない、下降傾向にある中で、ある程度早めに対策を打たないと、底に来た時に学校をどうするかでは遅いと思うんです。だから長期、中期、短期のいろんなことを考えながら学校存続の対応をしていかなければならないと。小規模の良さ、大規模の良さ、色々あると思います。そこをある程度整理をして、子供達の減少率を把握しながら考えていくことが必要なのかなと思います。</p> <p>今、19市ある中で、霧島市などは大きな合併をしてきたところですけど、旧牧園町や旧国分市には小さな学校が沢山あって、統合しなければならないところがあり、行政の方で進められている状況もあると聞いています。</p> <p>最後の「その他」で話をしようと思っておりましたが、県下でも令和8年4月1日の開校が予定されているところが、鹿児島市の桜島学園。ここは小学校が5校、中学校が3校、計8校が桜島学園として開校します。あと本市の串木野中、串木野西中、羽島中、生冠中が串木野中へ。そして天城町の西阿木名学園。西阿木名小と三京分校、西阿木名中、この3つが西阿木名学園へ。志布志市の学びの多様化学校、ここが開校予定です。</p> <p>あと閉校については、南九州市の清水小、そして鹿屋市の鶴峰小、ここが令和8年3月31日で閉校予定です。</p> <p>このように県下でも合併したり閉校したりしていますので、今からもまた出てくるのかなと思います。</p> <p>本市の場合も、特認校を設定している学校、これがうまくいっている学校もありますので、それも考えながら、いつの時点でどうするかをしっかりと考えていかなければならないということと、不登校の子供達も出てきておりますけれども、どこでこの子供達を預かって教育ができる環境を作っていくのかということも、やっていかなければい</p>



けない。100%というのは難しいかもしれませんが、ある程度の理解を得ながら、少しでも長く学校を継続したいというのがあるんでしょうけども、計画性を持った進め方をしていけないんじゃないかなと思っております。

荒川小学校の方から要望書が出てきていますが、児童数は現在8人で、来年度は3学級が2学級になって、先生方は教頭を含めて4人の体制から2人の体制になります。2人体制になった時に、研修会等への参加が思うようにできなくなってしまう。補教体制ができない。教頭が学級担任をしないといけない。このような状況になると学校の経営が厳しくなってくるのかなと。ですので、子供達のことを最大限に考えて、教員がいない中で学校をどう回していくか、というのが課題になってくるだろうと思います。

色んな事ができていたのが、小規模になるとできない、市の音楽発表会に参加できない、学習発表会が厳しくなってくる、色んな課題があるし、地域の要望、保護者の要望、色々総合的に勘案する中で、時間をかけながら方向性を出していかなければならない、大変な作業にはなると思いますが、今回のアンケートをしっかりと確認しながら検討していかなければならないのかなと思っています。

中屋市長

今日は中間報告ということですが、これからのアンケート結果の集計や分析の作業予定は、どういうことを予定していますか。

教育総務課長

出来る限り集計結果を提供をしたつもりではありますが、細かい分析になると、例えば小学生のみの世帯、未就学児の世帯、小学生も未就学児もいる世帯でそれぞれ考え方が違う部分もあると思います。この部分について、細かい分析であったり、また我々の一番の課題と捉えているのが、最後の問いの自由意見だと思っております。

学校統廃合のことも書いてあれば、学校教育のことを書いてあるもの、PTA活動のことも書いてある、そのようなものを分類しながら検討すべき事項が多いのかなと、こういった課題をつぶすことが大事というふうに捉えているので、定例教育委員会で分析結果を見ていただきながら、複数回に分けて議論を充実させ、また、市長部局の方にも協力いただき、市の学校統廃合検討会議がございますので、横連携をしながら今後のあり方を色んな視点で出し合っていきたいと考えております。

議論が成熟しないままでは地域との意見交換会も難しいと思いますので、今後進めていければと思います。

中屋市長

今回、幅広の形で意見を見てきましたので、これからの作業をする

<p>中屋市長</p>	<p>にあたって、何を考えなくちゃいけないのか、そこをしっかりと整理していただきたいと思います。</p> <p>これだけボリュームがあると、なかなか話が進まないと思いますから、我々は何を論点にしなければならないのか、保護者の皆さんが何を関心を持って、あるいは何を気にされてるのか、そこをしっかりと絞り込むというのが必要だろうと思いますから、作業は大変でしょうけど、そういう観点で進めていただいて、またご意見をいただきながら、これは総論の部分ですから、統廃合含めて今後の学校の再編をどうという観点で作業をすればいいのか、整理していただきたいと思います。</p> <p>では次に(3)「荒川小学校の串木野小学校への統合について」です。荒川小学校PTAと荒川地区まちづくり協議会から荒川小学校を串木野小学校へ統合してほしいと要望書が提出されております。</p> <p>このことについての説明、そして、委員の皆さん方の率直なご意見、色んな意見をお出しいただければと思います。</p>
<p>教育総務課長</p>	<p>荒川小学校PTA会長及び荒川地区まちづくり協議会会長から、12月5日に教育委員会へ「荒川小学校の串木野小学校への統合に関する要望書」が提出されております。</p> <p>( 資料を見ながら、要望書の内容と、要望書提出に至るまでにPTAや地域でどのようなやり取りがあったか、学校と統合する際の課題等についてを説明 )</p>
<p>中屋市長</p>	<p>皆さんから意見を出していただきたいと思います。</p>
<p>各委員</p>	<p>( ※提出された要望書に対し、意見交換を行う。 ※各委員から出していただいたそれぞれの意見については、非公開とする )</p>
<p>中屋市長</p>	<p>ありがとうございました。</p> <p>皆さんからの率直な意見をお聞かせいただきました。</p> <p>今日はあえて、取りまとめはしませんので、皆さん方のご意見というのを聞かせていただいて、今後の作業につなげるということであります。</p> <p>出ましたように、色んな関係があると思うんです。学校の経営という観点、地域、一人一人の子供にも個性があって、大規模校で切磋琢磨し伸びる子もいれば、どうしてもなじめない子もいる、こういう中で我々はどういう風にやっていけばいいのかと、そのことを苦しみな</p>

<p>事務局</p>	<p>がらも、皆さん方の知恵でなんとかやっていきましょう。</p> <p>そして、荒川小学校から要望もあがってきていますので、ゆったり構えられないという実情がありますから、そういった意味ではここを頑張っ、なんとか答えを出していきましょう。よろしくお願ひします。</p> <p>それと今回、議会の方でも、学校統廃合についてずいぶん関心があるということで、今後予定される小学校の統廃合は、中学校統廃合で明らかになった課題と反省点を生かすことが重要ですよねという質問が出ております。</p> <p>中学校、これから課題が出てくるかもしれませんが、我々はできる限り予測しながら、心配されることをどういうふうにと考えながら、小学校のこれからの統合・再編を検討する必要があるのかなと、ぜひ、引き続きお願ひします。</p> <p>時間になりましたので、進行を事務局に返したいと思ひます。</p> <p>ありがとうございました。</p> <p>本日の協議は終了ということになりますが、最後、会次第4の「その他」ですが、皆さんからご意見や連絡などございませぬか。</p>
<p>橋口委員</p>	<p>今日は市長さんもいらっしやるということで、ぜひ報告と言うか、聞いていただきたいことがあります。</p> <p>いちき串木野英語カルタの件です。</p> <p>いよいよ3月に印刷が終わって、出来上がってくるんですが、全国には郷土カルタっていうものは沢山ありまして、どんどん増えていく、そんな中であって、英語カルタというのは、しかも自治体が主体となったカルタは、まだ製作されていない、もしかしたら第1号かもしれない。日本語の郷土カルタを注釈として英訳したカルタはいくつかある。これからもそういったものは増えていくと思うんですが、最初から英語の読み札を作って、というのは第1号だと思うんですね。</p> <p>これはもちろん、学校教育で使うということで、教育委員会の方で事業としてやらせてもらったんですけども、なかなか完成度が高いものができたかなって自負してます。</p> <p>学校の中だけではもったいない。</p> <p>英文にしても、日本語で読んでも、どちらもリズム感がある親しみやすいものを作ったつもりであります。</p> <p>小学校、中学校だけじゃなくて、市民全員で愛用してもらえ、そういうところに、次の段階、ぜひ検討していただきたいなと思ってます。</p> <p>具体的なアイデアはいくつかあるんですけど、ここで今日は申し上</p>

<p>中屋市長</p>	<p>げませんが、「英語のまち いちき串木野」って言ってますが、どういったことをやってるんですかと、そういう意見が出るほど、今まで特色が足りなかったかもしれない。</p> <p>それを強化の第1弾として、ぜひこの英語カルタ、皆さんで盛り上げてほしいなと思います。</p> <p>よろしくお願いします。</p> <p>橋口委員には大変ご苦労いただいたということで、楽しみにしております。</p> <p>今回の議会の一般質問でも、「英語のまち」のことについて、質問が出ておりますので、そのことを踏まえながら、教育長が答弁されると思います。</p>
<p>事務局</p>	<p>以上で、令和7年度第1回総合教育会議を閉会いたします。</p> <p>本日はありがとうございました。</p> <p style="text-align: right;">(午後5時3分)</p>